

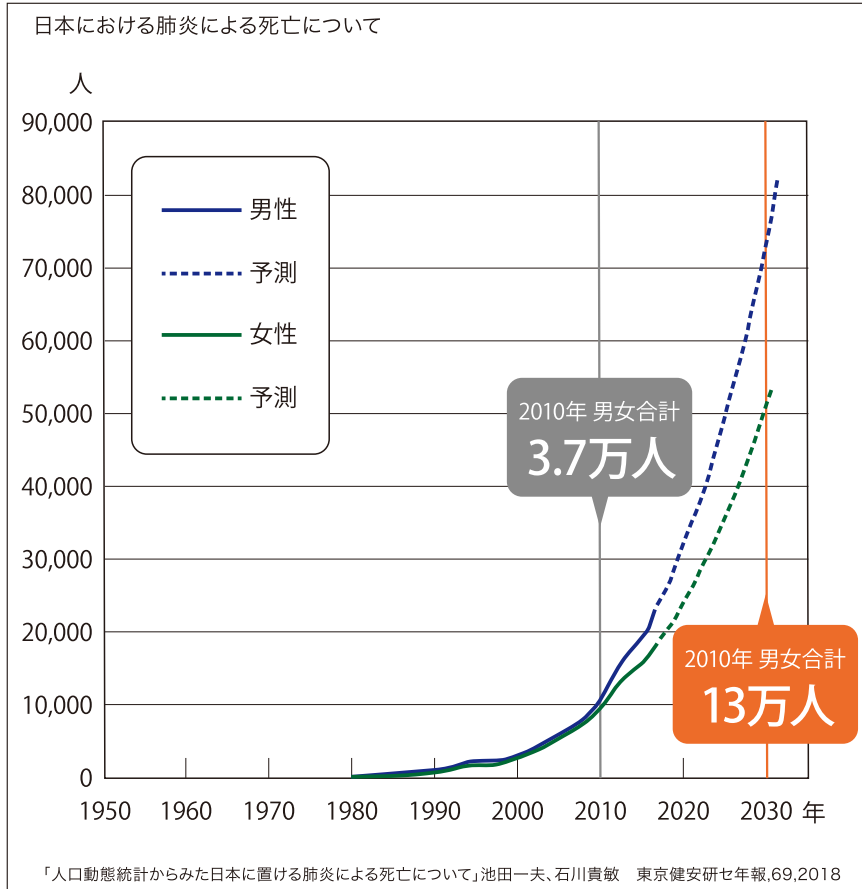
誤嚥性肺炎

ごえんせいはいえん
誤嚥性肺炎とは

って知ってますか？

青森県歯科医師会 理事 赤穂和広

食べ物が入るのではなく、気管に入ってしまった場合、通常はむせて気管から排出する反射機能が働きます。しかし、この機能が鈍ってしまうと、気管に入り込んでしまった食べ物を排出できず、結果として肺炎を起こすことがあります。



誤嚥性肺炎とは？

食べ物を飲み込む働きを嚥下(えんげ)機能、口から食道へ入るべきものが気管に入ってしまったことを誤嚥(ごえん)といいます。誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)は、嚥下機能障害のため、唾液や食べ物、あるいは胃液などと一緒に誤って細菌を気道に吸い込んでしまうことにより発症します。

唾液や食べ物を飲み込むときに、誤って気管に入ってしまうことを誤嚥といいますが、通常は気管に食べ物が入ってしまった場合、むせることで気管から異物を排出する反射機能が働きます。誤嚥性肺炎とは、

この機能が鈍ることで排出できなかった異物が肺に入ったままになってしまい、肺の中で炎症が起こることをいいます。加齢によって嚙む力が弱くなったり、舌を動かす筋肉が衰えたりすることで、食べ物を飲み込む嚥下機能が低下する高齢者に多く起こります。

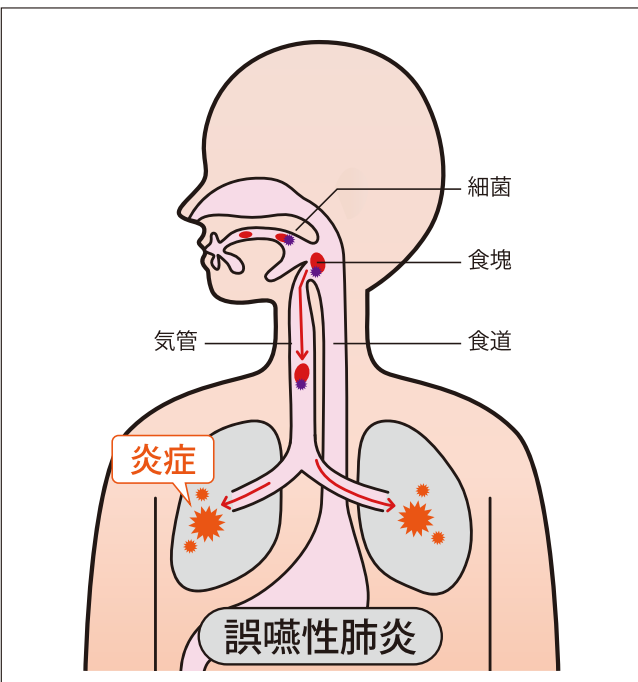
高齢者の肺炎罹患者の7割以上は誤嚥性肺炎と言われています。誤嚥性肺炎による死亡者数は、2010年には男女合わせて約3.7万人でした。年々増加の傾向にあり、現在の傾向が続けば、2030年には死亡者数が約13万人にまで増えるという予測があります。高齢の方

にとって、誤嚥性肺炎は誰にでも起こり得る身近に迫る問題です。

原因をくわしく

高齢者、認知症の人、神経疾患などで寝たきりの人は、とくに口腔内の清潔が十分に保たれていないこともあり、口腔内で肺炎の原因となる細菌がより多く増殖しています。また、物を飲み込む嚥下機能が衰えることで、口から食道に入るべきものが気管に入ってしまう誤嚥を起こしやすくなっています。誤嚥によって食べ物や唾液、胃液などと一緒に細菌が気道に入ることによって肺の中で細菌が繁殖して炎症を起こし、誤嚥性肺炎が発症します。また、食べ物などの誤嚥

物などの誤嚥



誤嚥性肺炎のサイン

誤嚥性肺炎には、次のような典型的な症状があります。

- 発熱
- 激しい咳と膿性痰(のうせいたん)黄色いタンが出る
- 呼吸が苦しい
- 呼吸時、肺に雑音がある

これらは風邪と間違えて診断されてしまうことがあり、特に高齢者でこのような症状がある場合は誤嚥性肺炎の可能性を考慮する必要があります。また高齢者の場合は普段の生活で、肺炎とは無関係のような次の症状が見られる場合でも、肺炎の可能性があります。

- 元気がない
 - 食事時間が長くなる
 - 食後に疲れてぐったりする
 - ぼーっとしていることが多い
 - 失禁するようになった
 - 口の中に食べ物をため込んで飲みこまない
 - 体重が徐々に減ってきた
 - 夜間に咳き込む
- 日常生活の変化に気をつけ、これらの兆候がみられたら、すぐ

にかかりつけの医師や病院に相談することが、誤嚥性肺炎の発見につながります。

誤嚥の原因(摂食・嚥下障害について)

摂食・嚥下障害とは？

摂食・嚥下障害は、食べること・飲み込むことの障害で、「摂食」は食事を摂ること、「嚥下」は飲食物を飲み込むことを指します。食事や水分などがうまく食べられない・飲み込めないような状態をいいます。症状は様々ですが、うまく食べ物を噛めない・口からこぼれてしまう・飲み込むまでに時間がかかる・飲み込んでもむせてしまう・食後に痰が多くなるなどの症状が出やすいです。また、これらの症状が低栄養・脱水・肺炎などに繋がってしまうこともあります。

摂食・嚥下は、大きく分けて5つの時期に分けられており、無意識に行われる「連の動作」を「摂食・嚥下の5期」とまとめて呼んでいます。これら摂食・嚥